

令5 高等学校福祉 (4枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

I 次の(1)~(5)は、社会福祉の発展に寄与した人物について述べたものである。それぞれの人物名を答え、最も関係の深いものをあとのア~オから選んで、その符号を書きなさい。

- (1) 産業人として、銀行・鉄道・ガス・電気など数多くの企業や事業の創設に関わるとともに、慈善事業や日本赤十字社、聖路加国際病院、済生会などの病院、日本女子大学、二松学舎大学などの各種公共的事業の運営にも関与し、支援した。
- (2) 1909年から神戸の貧民街に住み、キリスト教の伝道と生活支援に取り組んだ。その活動のなかで、貧民たちの多くが農村出身の工場労働者の転落層であり、これを防ぐ必要性を認識し、労働運動や無産政党樹立運動など幅広い社会運動に関与した。
- (3) イギリスの経済学者であり、チャーチル政府のもとで委員会の責任者となり、「社会保険および関連サービス」をまとめた。
- (4) 1891年、東京に知的障害の子どもたちを入所・援助する、わが国最初の知的障害児施設を設立した。
- (5) 「友愛的に共感して、それが本当に社会の常識となる」という言葉を残し、障害者福祉に尽力した。

ア 社会における5つの悪	イ 「滝乃川学園」の設立	ウ 協同組合の普及
エ 日本の資本主義の父	オ 「福祉の思想」の著者	

II 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Aさんが勤務している福祉施設には、BさんとCさんが利用している。Bさん(男性・85歳・要介護2)は、自宅で妻と二人暮らしで、この施設に週2回「通い」と週1回「訪問」のサービスを利用している。Bさんは最近、言葉数が減り、理解も難しくなっている。また、人格が変わり、同じ行動を繰り返すことが顕著になり、認知症と診断された。Cさん(女性・83歳・要介護3)も週2回「通い」と週1回「泊まり」のサービスを利用している。Cさんは、車いすを使用しており、一人暮らしのため、施設で入浴のサービスを利用している。

1 下線部aについて、次の問いに答えなさい。

- (1) 介護関係業務に携わる労働者が人間らしい環境のもとで、十分にその能力を発揮できるように労働環境の整備と福祉の増進を目的に制定された法律は何か、書きなさい。
- (2) 病院や福祉施設において、感染の有無に関わらず、すべての利用者の血液や体液、分泌物、排泄物などに感染の可能性があると考えて講じる感染症の予防策の基本のことを何というか、書きなさい。
- (3) ある日、施設内で疥癬が広がった。疥癬の病原体となる寄生虫名と感染経路を書きなさい。

2 下線部bについて、この行動を何というか、書きなさい。

3 下線部cについて、次の問いに答えなさい。

- (1) Bさんが診断された認知症の種類を書きなさい。
- (2) (1)の認知症のうち、側頭葉の萎縮が中心に起こるタイプは何か、書きなさい。
- (3) (2)のタイプにおいて、過半数の人から判明される脳の神経細胞内に異常蓄積するたんぱく質は何か、書きなさい。
- (4) 1975年にフォルスタインらが開発した認知機能を評価する検査で、文章を書くことや図を書き写すなど、動作性の認知課題が含まれた11項目の質問で構成される認知機能検査は何か、書きなさい。
- (5) 認知症の治療薬のうち、レビー小体型認知症で保険適用となっている薬剤名を書きなさい。
- (6) 高齢者にとって、環境が急激に変化すると身体的・精神的に負担となり、心身の健康を害することがある。このような状態を引き起こすことを何というか、書きなさい。

4 下線部dについて、Cさんは福祉用具貸与である車いすを使用している。介護保険が対象としている福祉用具貸与の品目となっているものを、次のア~オから2つ選んで、その符号を書きなさい。

ア シルバーカー イ 歩行補助杖 ウ 補聴器 エ 人工肛門用装具 オ 床ずれ防止用具

5 下線部eについて、次の問いに答えなさい。

- (1) 入浴の作用について、温熱作用と浮力作用とあと1つは何か、書きなさい。
- (2) 入浴する際など、温度差によって血圧の急激な変化を起こすことを何というか、書きなさい。

6 BさんとCさんの利用している施設の種類の名称を書きなさい。

7 AさんがBさんとのコミュニケーションをとる際に望ましい対応方法を次のア~オから2つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 説明の理解は困難なため単語で伝える イ 間違いはきちんと正す
ウ 非言語を最大限に活用する エ 話に詰まることがあれば、話の続きを予測して言葉を補う
オ 「それ、あの」などの指示語を活用する

令5 高等学校福祉 (4枚のうち2)

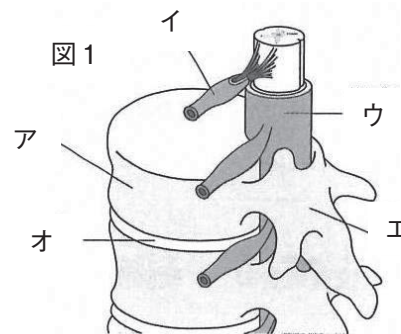
(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

Ⅲ 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Dさん(男性・44歳)は1年前に職場の階段から転落し、a第7頸髄を損傷した。現在は病院に入院し治療、機能訓練を受けている。家族はDさんの自宅復帰を願っているが、Dさん自身は障害のため、b健康ではないと言い、1日の大半をベッドに臥床して過ごし、単調な生活を送っている。食事はスプーン、フォークを使用して自力で摂取が可能であるが、時間がかかり、食べこぼしが多いため職員に介助を依頼することが多い。入浴は週2回、特殊浴槽にて全介助が必要である。排泄は、尿は膀胱留置カテーテルを用いて行い、c便は便秘気味で3日以上排便がないときは浣腸を施行し排便している。移動・移乗はリフトや車いすを使用し、介護者による全介助で行っている。

1 下線部 a について、次の問いに答えなさい。

- (1) 図1は背骨の一部を示している。脊髄はどれですか。図1のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。
- (2) Dさんにみられる麻痺として適切なものはどれですか。次のア～エから1つ選んで、その符号を答えなさい。また、その麻痺の名称を書きなさい。



- (3) Dさんの身体機能として、誤っているものを次のア～カから2つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 発汗機能が麻痺して体温調節が困難である	イ 便意や尿意を感じるのが困難である
ウ 起立性低血圧を発生しやすい	エ 高次脳機能障害を併発していることがある
オ 不随意運動による四肢の動きがみられる	カ 褥瘡がしやすい

2 下線部 b について、WHO (世界保健機関) 憲章の前文の「健康」の定義について、() に適切な語句を書きなさい。

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして () にも、すべてが満たされた状態にあること。

3 下線部 c について、ブリストル便形状スケールにおいて、便秘とみなされる便のタイプを2つ書きなさい。

4 Dさんは自身の障害について大半受容できていない状況にある。一般的な障害受容の過程として適切なものはどれですか。

次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ア 混乱期 — ショック期 — 受容期 — 否認期 | イ 否認期 — 混乱期 — ショック期 — 受容期 |
| ウ ショック期 — 否認期 — 混乱期 — 受容期 | エ ショック期 — 受容期 — 否認期 — 混乱期 |
| オ 混乱期 — 否認期 — ショック期 — 受容期 | |

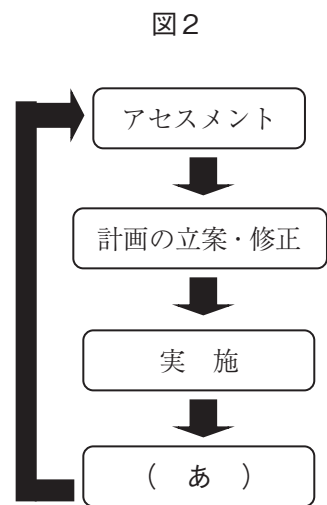
5 Dさんは公的医療保険により所得保障を受けている。Dさんが受けている保険給付は何か、書きなさい。

6 Dさんの在宅復帰に向けて、介護計画を立案することになった。次の問いに答えなさい。

- (1) 図2は介護過程の4つのプロセスを示している。図2の (あ) に適切な語句を書きなさい。
- (2) ICFを用いたアセスメントについて、「活動および参加」におけるアセスメント項目として適切なものはどれですか。次のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ア 障害をどう受け止めているか | イ 麻痺の部位と程度 |
| ウ 積極的に訓練しているか | エ 自宅の構造上の不便はないか |
| オ 家族との関係はどうか | |

- (3) Dさんの人間関係や障害に対する考え方を育てるため、同じ障害のある他の利用者との交流を企画した。同じ問題を抱えた仲間同士の相互交流や相互学習を何というか、書きなさい。
- (4) Dさんのアセスメントを行った結果、複数の生活課題が明らかになった。生活課題を支援するためには、課題のなかで優先順位を設定しなければならない。生活課題の支援を行う際に踏まえる5つの支援の視点は何か、書きなさい。



令5 高等学校福祉 (4枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

IV 次の事例を読んで、あとの問いに答えなさい。

Eさん(10歳・女兒)は、a父子家庭で、b軽度の知的障害があり、地域の小学校に通学している。平日の学校終了後や夏休みに生活能力向上のための訓練や社会との交流を促進するために、障害児通所支援を利用している。先日、学校の内科検診を受けているとき、d体にあざができていたのを見つけたため、学校が公的機関に相談した。

- 1 下線部 **a** について、生活の安定と自立の促進に寄与し、子どもの福祉の増進を図ることを目的として2010年8月から父子家庭にも給付されるようになった手当は何か、書きなさい。
- 2 下線部 **b** について、Eさんに交付される障害者手帳の種類は何か、書きなさい。
- 3 下線部 **c** について、障害児通所支援の種類は何か、書きなさい。
- 4 現在のEさんのような知的障害のある児童の児童期にとって大切なことを次のア～オから3つ選んで、その符号を書きなさい。
ア 自身の心身機能の状態を理解する イ 親離れするための生活スキルを習得しサービスを利用する
ウ 新たにあらわれた病気に対応する エ 地域での人間関係を広げる
オ 放課後や余暇の過ごし方を学ぶ
- 5 下線部 **d** について、次の問いに答えなさい。
 - (1) このような相談内容に最も関連が深い法律は何か、またそれはいつ制定されたのか、書きなさい。
 - (2) 相談機関として、警察や市町村窓口の他に、各都道府県などに設置されている機関はどこか、書きなさい。
 - (3) 2019年度における全国の児童虐待の種類別相談件数において、最も多かった相談の種類は何か、書きなさい。

V 生活支援技術の授業において、次のような内容で実技試験を行うことになった。あとの問いに答えなさい。

<試験内容> 仰臥位で寝ている左片麻痺のある利用者をベッドから車いすへスライディングボードを活用して移乗します。

- 1 実技試験を開始する前の生徒に身だしなみで確認することは何か、3つ書きなさい。また、その理由を説明しなさい。
- 2 この試験において開始直後、利用者に声かけをした後、支援に入る前に必ず行わなくてはならない安全面での確認項目は何か、具体的に3つ書きなさい。
- 3 スライディングボード等の福祉用具を活用して移乗支援を行う場合の留意点は何か、3つ書きなさい。

VI 学習指導要領(平成30年告示)における科目「生活支援技術」について、次の問いに答えなさい。

- 1 科目の目標について、あとの(ア)～(カ)に適切な語句を書きなさい。

福祉の見方・考え方を働かせ、(ア)・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・(イ)な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自立生活の支援について(ウ)・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる(エ)を踏まえ科学的な(オ)に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ(カ)に取り組む態度を養う。

- 2 指導項目(5)医療的ケアについて、次の(a)～(c)の空欄に適切な語句を書きなさい。

(5) 医療的ケア

- ア 医療的ケアの (a)
イ 高齢者及び障害者の (b)
ウ 高齢者及び障害者の (c)

令5 高等学校福祉解答用紙 (4枚のうち4)

総計		

I	(1)	人物名		符号		(2)	人物名		符号		(3)	人物名		符号		
	(4)	人物名		符号		(5)	人物名		符号							
II	1	(1)					(2)									
		(3)	寄生虫名					感染経路					2			
	3	(1)					(2)					(3)				
		(4)					(5)					(6)				
4				5	(1)					(2)						
6					7											
III	1	(1)		(2)	符号		名称		(3)							
	2					3					4					
	5				6	(1)				(2)				(3)		
	6	(4)														
IV	1					2					3					
	4				5	(1)	法律名				制定年	年				
	5	(2)				(3)										
V	1			理由												
				理由												
				理由												
	2															
3																
VI	1	ア					イ					ウ				
		エ					オ					カ				
	2	a					b					c				

I		

II		

III		

IV		

V		

VI		

令5 高等学校福祉 模範解答

総計		
200		

I	(1) 人物名 渋沢栄一 符号 エ	(2) 人物名 賀川豊彦 符号 ウ	(3) 人物名 ウィリアム・ベヴァリッジ 符号 ア		
	(4) 人物名 石井亮一 符号 イ	(5) 人物名 糸賀一雄 符号 オ			
II	1 (1) 介護労働者法		(2) 標準予防策 (スタンダード・プリコーション)		
	(3) 寄生虫名 ヒゼンダニ	感染経路 接触感染 (直接感染、間接感染)	2 常同行動		
	(1) 前頭側頭型認知症		(2) 意味性認知症	(3) TDP-43たんぱく	
	(4) MMS E (ミニメンタルステート検査)		(5) ドネペジル (アリセプト)	(6) リロケーションダメージ (トランスファーショック)	
	4 イ, オ	5 (1) 静水圧作用	(2) ヒートショック		
6 小規模多機能型居宅介護	7 ウ, エ				
III	1 (1) ウ	(2) 符号 ア	名称 四肢麻痺	(3) エ, オ	
	2 社会的		3 タイプ1, 2	4 ウ	
	5 傷病手当金		6 (1) 評価	(2) ウ	(3) ピアサポート (ピアカウンセリング)
	6 (4)	生命の安全性 (具体例でも可)		生活環境の安全性 (具体例でも可)	
		環境因子の未整備 (具体例でも可)		社会参加への阻害要因 (具体例でも可)	
		個人因子 (実生活と自己実現の乖離) (具体例でも可)			
IV	1 児童扶養手当		2 療育手帳	3 放課後等デイサービス	
	4 ア, エ, オ		5 (1) 法律名 児童虐待防止法	制定年 2000 年	
	5 (2) 児童相談所 (こども家庭センター)	(3) 心理的虐待			
V	1	服装	理由 安全面 (衛生面) に配慮するため		
		頭髪 (髪型)	理由 利用者に不快を与えないため (衛生面に配慮するため)		
		爪	理由 利用者を傷つけないため (衛生面に配慮するため)		
	2	車椅子のブレーキの確認 (車椅子の置く位置の確認)		ベッドの高さの確認	
		ベッドのキャスター・ロックの確認			
3	利用者にあった物を選定する				
	用具 (機器) の点検を行い、安全を確認する (安全・安楽を保つ)				
	利用者の心情 (恐怖・不安) に配慮し、意向を確認する				
VI	1	ア 実践的	イ 安楽	ウ 体系的	
		エ 倫理観	オ 根拠	カ 協働的	
	2 a	理解	b 喀痰吸引	c 経管栄養	

I		
15		

II		
54		

III		
45		

IV		
26		

V		
33		

VI		
27		